

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度(評価)
A: 十分達成できている
B: おおむね達成できている
C: やや不十分である
D: 不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>・児童の主体的な学びを目指して、算教科を中心に校内研究を進めた。伝え合う場面において対話活動の様々なスタイルの中から選択し、授業を重ねていくうちに児童は対話の方法に慣れ、少しずつ自分から進んで活動する姿が見られるようになってきた。ICT機器が導入されてコミュニケーションの仕方は様々であるので、対話や交流、共有の仕方を広げていくことも大切であると考えている。</p> <p>・心のアンケートの実施、連絡会での気になる児童の情報共有を行いいじめ等の未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に努めた。また不登校及び不登校傾向の児童についても全職員で共有できた。不登校及び不登校傾向児童や特別な支援を要する児童については、今後もケース会議を開く等組織として対応していく。</p> <p>・2年～4年生において、松浦コミュニティセンターと連携し、地域人材を活用した郷土についての学習を行うことができた。今後は、1・2年生の昔遊び等、地域人材との交流をよりよい形で設定していけるようにしたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	よく学び、よく鍛え、心やさしい児童の育成
----------	----------------------

3 本年度の重点目標	<p>○気持ちのよいあいさつや返事ができる子ども</p> <p>○互いに考えを出し合い、高め合おうとする子ども</p> <p>○自他の人権を守る子ども</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ○自分の考えをもち、考えを広げたり深めたりするための学び合い活動を充実させる。	○基礎的・基本的な内容の問題(評価テストなど)の正答率を80%以上にする。 ○「自分の考えをもって話し合いに向かえたか」という問いに対して85%以上の児童が肯定的な回答をできるようにする。	・算教科の導入場面で問題の意味をつかむ時間「読みタイム」を設ける。また、各教科でペアやグループで自分の考えを伝え合う場を設ける。 ・授業の中で、自分の考えを文章でまとめたり、ふり返りを書いたりする時間を設ける。 ・習熟の時間を確保し、基礎学力の向上を図る。							学力向上対策Co
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	●各学年1回以上、自他の人権を守る大切さを学ぶ授業を実施する。 ●「友だちのことを考えて、ふわふわことばをつかったりやさしく接したりしている」と回答した児童の割合を80%以上にする。 ●児童全員と個別の面談を実施する。 ●児童の様子や対応を共通理解するための職員全体での話し合いの場を定期的に設定する。	・共通教材を用いた全学年での人権学習や人権教室を実施する。 ・夢の広場(人権教室)やRタイムの年間計画を立案し、全職員で実施する。 ・年間を通して「ありがとうの木」「かがやきの木」を掲示し、感謝する心や思いやりの心等の意識付けを行う。 ・「心のアンケート」を実施するとともに、担任が児童と個別面談を行う期間を年間に2回設定する。 ・毎週の職員連絡会で、気になる児童についての共通理解を促し、必要に応じてケース会議等を開く。 ・「心のアンケート」を実施するとともに、担任が児童と個別面談を行う期間を年間に2回設定する。 ・毎週の職員連絡会で、気になる児童についての共通理解を促し、必要に応じてケース会議等を開く。 ・部署差別を解消するための学習計画に沿って、各学年の発達段階に応じた人権学習に取り組む。 ・校内研において向上を目指す側面「知的側面」「価値的・態度的側面」「技能的側面」の具体的な方法を探り、実践する。							児童生徒支援員 人権同和教育担当 生活指導主任
◎志を高める教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童の割合を90%以上にする。 ●「自分のことを理解し、自分が好き」と回答した児童の割合を70%以上にする。 ●「将来の夢や目標に向かってがんばったり、勉強や生活の仕方を変えたりできた」と回答した児童の割合を70%以上にする。	・学校生活の中でどの児童も活躍できる場を作り、授業の振り返りや帰りの会などで教師も子どもの良いところをほめる。 ・帰りの会の良いところを見つけや道徳や学活などで自分の良さについて考える機会を設け、その活動を継続していく。 ・学期始めなどに立てた目標を定期的に振り返る時間を設け、児童が工夫して目標達成に取り組む態度を育てる。							
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●運動が好きになった、前より運動をするようになった児童が80%以上を目指す。 ・健康調査「毎日朝ごはんを食べることができましたか」の好意的評価を95%以上にする。 ・健康調査「感染症/熱中症の予防ができましたか」の好意的評価を90%以上にする。	・学期に1回外遊び習慣を設け、外遊びを奨励するようにした児童が80%以上を目指す。 ・大会前にはマラソンタイムや長縄タイムの時間を設ける。 ・朝食の大切さ、感染症の予防や熱中症の予防など、自分で自分を守るこの大切さについて、保健だよりや掲示物、健康委員会の活動を通して呼びかける。 ・栄養教諭の食育の授業を計画・実施する。また、朝ごはんチャレンジ週間を設定し、家庭を巻き込んだ朝ごはん習慣の定着を図る。							体育主任 保健主事・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在職等時間の削減 ○成績二期制に相応した学校行事や会議等のスリム化を図る。	●月の時間外在職等時間が45時間を超える職員の割合15%以下にする。 ○年間行事について精選を行う。また、会議や集会のスリム化を進める。	・毎週金曜日を定時退勤日とし、17時施設を原則とする。 ・月、週、日の見直しをもって業務遂行に努める。 ・業務に優先順位をつけて一日の業務タスクを決定し、タイムマネジメントを行うよう意識を高める。 ・管理職との情報共有を密に行い、行事の精選や会議等のスリム化に積極的に取り組む。							教頭・事務 教務
●特別支援教育の充実	○全ての児童が安全・安心して学ぶことができる多様性を尊重した学級経営 ○全教職員による支援を要する児童の理解と支援に対する共通理解 ○教員の専門性と意識の向上	○全ての児童が安心して学ぶために急な時間割変更が必要になる場面を減少させる。 ○支援を要する児童のための理解の場の設定と必要に応じてケース会議の実施の割合を100%にする。 また、職員や児童、保護者から要望があった場合、巡回相談員および専門家派遣等、専門的な相談機関との連携実施を100%にする。 ○職員アンケート「年度当初と比べ特別支援教育に関する専門性が向上したと思う」の割合を80%にする。	・支援学級の時間割を基に交流学級の固定時間割を作り、急な時間割の変更が無いようにする。 ・毎週の職員会議において全職員で情報を共有し、ケース会議につなげる。 ・発達障害等に関する研修会を年2回以上実施する。							特別支援教育Co
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
★開かれた学校づくり	★コミュニティスクール共通ビジョン「志をもち、地域とともに他者と協働して高めあう東陵中校区」の推進を図る。	◎コミュニティセンターと協力し、地域人材を生かした学習を各学年で年に1回以上行う。 ◎地域人材を生かした体験活動を通して、地域や地域人材のよさに気づくことができた児童を80%以上にする。	・全学年において地域学習について、ゲストティーチャーを積極的に招く。(農業体験、町探検、昔遊びなど)							
○ICT利活用の促進	○伊万里市プログラミング教育「コアカリキュラム」の実施 ○ドリルアプリの積極的な活用	○各学年に示す「コアカリキュラム」の内容を確実に実施する。 ○週に一回はドリルアプリを利用する割合を100パーセントにする。	・週2回の算数タイムのうち、1回はEライブラリの算数学習に取り組む。							情報教育Co

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
--------------------	--